

民報 ゆうばり

党南空知女性後援会キャラバン、走る!

若者・女性貧困層激増! 消費税9割が大企業へ!

●先進国一の医師不足、学費が異常に高い
●奨学金がまるで利息付きの教育ローン!?
●医療・年金・教育・社会保障・働くルールも一
先進国の中では異常に遅れているのが日本!



これを実行すれば、働いても働いても、働いて

大企業にはバラマキをやめて、富裕層と大企業にはヨーロッパ並みの税負担をしてもらい、社会保障の財源をつくり

憲法違反の集団的自衛権は「海外で戦争する国づくり」の閣議決定は撤回を!

夕張を奪えるのは市民の声! 国政を奪えるのも市民の声!

来年の一斉地方選挙、翌年の国政選挙で住民が大切にされる地域づくり、国づくりのために、ご一緒に力を合わせていこうではありませんか。

7日、共産党南空知女性後援会の宣伝キャラバンが、夕張市内4か所です。また、由仁・栗山・長沼・南幌町で、街頭宣伝を実施しました。
マイクを握った、くまが桂子市議の演説の概要をお知らせします。

雪虫も飛び、朝晩、暖房も必要になってきました。市民の方々から、こんな不安の声が。
●円安による物価高、灯油の値上げも心配
●年金が減らされた
●給料が上がらない
●消費税が10%に?

民間企業4人に1人が年収200万円以下! しかも、内4割は年収100万円以下!
国税庁民間給与実態調査によると、昨年

「世界第3位の経済大国なのに」
「民間企業4人に1人が年収200万円以下! しかも、内4割は年収100万円以下!」
「これまでの消費税支払い分 282兆円」その9割を超える 255兆円が大企業の減税に!

「海外で戦争する国づくり」の閣議決定は撤回を!
憲法違反の集団的自衛権は「海外で戦争する国づくり」の閣議決定は撤回を!

「海外で戦争する国づくり」の閣議決定は撤回を!
憲法違反の集団的自衛権は「海外で戦争する国づくり」の閣議決定は撤回を!

老人クラブ連合会 創立50周年記念



9月30日、老人福祉会館において『夕張市老人クラブ連合会創立50周年記念式典・第50回夕張市老人福祉大会』が開催されました。

創立は1964年、夕張市の当時の人口は10万人台でした。

この50年間『健康、友愛、奉仕』の全国三大運動をはじめ、次世代育成、交通安全、子どもの見守りなど幅広く地域活動にも貢献し、式典では11名の方が老人クラブ功労者表彰を受賞しました。

式典のあとは祝賀会が行われ、大正琴、民謡、ダンスなどが披露されました。

STOP再稼働！ ＝さよなら原発 北海道集会＝



10月4日、ストップ再稼働！さよなら原発一万人集会に夕張から18名が参加しました。

「原発をなくす夕張の会」の呼びかけで、マイクロバスを貸し切り、天候が危ぶまれるなか、札幌大通り会場へと向かいました。

原発事故から三年半が経過した福島では、今なお、十二万五千人を超える県民が避難生活をよぎなくされています。それにもかかわらず安倍政権は、九州電力川内原発の再稼働を強行しようとしています。

これまで、札幌集会や岩内集会、そして道庁前の金曜日集会に、夕張からも参加してきています。

当日は、「原発をなくす夕張の会」の真新しいのぼりを用意し参加者一同で声を加えました。叫びました。

呼びかけ人代表として小野有五さんがあいさつし、特別ゲストの加藤登紀子さんが歌とスピーチをしました。札幌西八丁目広場に降り始め、集会が盛り上がるころから激しい雨に変わりました。

集会アピールでは、「私たちは、強く訴えます。決してフクシマを忘れてはなりません。原発はいりません。『再稼働』を許してはなりません。命と暮らしを守るため、そして、子どもたちの未来を守るため、泊原発の『再稼働』を止めましょう！川内原発をはじめ全国の原発の『再稼働』を止め、すべて原発をなくしましょう！さようなら原発！」と約三千五百名の参加者一同で声をそろえて、叫びました。

激しい雨のため、予定していたデモ行進を急ぎよ中止し、会場内でシュプレヒコールを連呼して集会は終了しました。



夕張・初のたたかい ③ 坑夫騒動(その2)

この後坑夫たちの代表5〜6人は、5日午後の4時頃、この行動に参加しなかった坑外現場中心の大塚飯場と石神飯場に向かい「賃上げハ単二坑内ト限リタルに非ズ、坑外ニモ大イニ関係アリ」(日本労働運動資料・第一巻)と抗議し、統一の行動を申し入れます。

賃上げという共通の要求での統一したたたかいをめざしている点は、見落とせません。

ところが大塚飯場の大塚栄太郎はいち早く裏口から逃げしまい、石神飯場では(一説には石亀というのもある)選炭婦だけの組だから坑内と違うので了解してほしい、と酒肴を出して接待します。

酒の勢いに暴走

満たされない気持ちのまま出された酒に酔った坑夫たちは勢いに乗って、もらった酒3升と荒巻を下げて市街地に繰り出します。そして3区にあった博徒「越後常」の経営する「料理屋・北海楼」(今の本町3丁目栄橋近く)に上がり込みました。

泥酔した坑夫の一人が、先客として飲んでいた土方の親分「宮内謙之丞」以下3〜4人の座敷の障子をがらりとばかり投げ放ってしまった。「おのれ何者、無礼千万なり」と口論になり、坑夫たちは散々に殴られて逃げ帰る。

その話を聞いた坑夫たちは、午後9時ころ約300人(*400人という説もある)がぞくぞくと集まる。「土方何するものぞ」とばかり報復のため北海楼にむかった。(当時土方と坑夫の間には、勢力を競って角逐があった)

北海楼では、すでに土方の一行は裏口から逃げてしまつて相手がいない。

(つづく)